

大阪

地域面3ページ→

2・21) わがままが通
で願いがかないそう。
1・19) 環境が動く
そうなので注意して。
2・18) 懐かしい友達
生とは恋の再燃も。
3・20) 趣味に幸運あ
ラブルをチャンスに。

おおさか支局

〒530-8251 (住所不要)

毎日新聞社会部おおさか支局

TEL 06・6346・8443

FAX 06・6346・8444

メールはat-osaka@mainichi.co.jp
読者の皆さんの取り上げてほしいテ
マなど、お寄せください。

【購読お申し込み】

フリーダイヤル0120-468012

ものの始まり

39

義太夫節

腹の底から響く太夫の声、
大棹三味線の奏でる重厚な音
。力強い語りで繊細な情
をも表現する義太夫節は、江
戸時代に大阪で生まれた。終
戦前後までは自らたしなむ素
人衆も多く、娯楽の中心にあ
った。近年は縁遠い感がある
が、300年変わらず、親子
のきずなや男女の情愛を語り
続けてきた義太夫に熱中する
人々はいまも健在だ。

「速い、やり直し」「だい
ぶんよくなってきた」。大阪
・ミナミのビルの一室。生徒
の語りを聴く文楽太夫、豊竹
英大夫さんの声に力がこも
る。師匠と向き合って語って
いるのは、勤め帰りのサラリ
ーマンら。竹沢団吾さんの三
味線に合わせて、力いっぱい声
を振り絞る。

義太夫が盛んだった時代
は、女流のお師匠さんらが開

終戦前後までは娯楽の中心

稽古屋がまち中にあ
り、素人衆の稽古の場
となっていた。落語「寝
床」は、下手な義太夫
を聴かそうとする商家
の旦那と、それに閉口
する人々を描く。落語
の題材になるほど、愛
好家が身近だったわけ
だ。

英大夫さんは十数年
前から、大阪で義太夫
教室を主宰。最初は「腹
から声を出すことが健
康にいいから」と、発
声を教えるのが中心だ
った。「初めは短いフ
レーズで声を出すだけ

文楽の舞台。三味線(右端)
と並んで太夫が義太夫節を
語る。右から2人目は近代
の名人・豊竹山城少掾(1
906年1月、大阪・文楽
座)。

老若男女、何役でも表現

ですが、次第
に戯曲のまと
まった部分を
語るようなに
なる。すると
『聴かせたい』
と思うように
なる。まさに
『寝床』です
わ」と、英大
夫さん。

現在、30
70代の男女約
40人が在籍。

落語や歌舞伎に大きな影響

普段は月1回の教室だが、今
年で5回目となる8月の発表
会に出る生徒を対象に、7月
以降は個人指導もしている。
生徒の川上弘恭さん(52)は
「老若男女、何役でも表現で
きるのが魅力」と言う。

ここで義太夫の歴史を。1
684(貞享元)年、大坂・
道頓堀の人形芝居で1人の浄
瑠璃語りが看板を上げた。男
の名は竹本義太夫(1651
~1714)。以前は、別の
流派で語っていたが、従来の
浄瑠璃にない語り口を確立し
て、評判となった。

以降、近松門左衛門らが現
代も受け継がれる戯曲を数多
く残し、幕末から昭和にかけ
てあまたの名人が語りや三味

線に磨きをかけてきた。落語
の題材となったり、戯曲は歌
舞伎に移入されたりと、他の
芸に与えた影響も大きい。英
大夫さんは「文章も名文が多
いうえ、太夫は体全体を使っ
てそれを語る。必ず魂が揺さ
ぶられるものがあると思う」
と義太夫の魅力を語る。

【花牟礼紀仁】

大阪では、7月17日
8月3日、国立文楽劇場
(大阪市中央区日本橋1)
である「夏休み文楽特別
公演」で義太夫が鑑賞で
きる。英大夫さんは第2
部の「夏祭浪花鑑」に
出演する。同劇場(06・
6212・2531)。



義太夫教室で指導する豊竹英大夫さん(右端)。生徒(右から2人目)は竹沢団吾さんの三味線に合わせて語る

「こんななにわの初モノ知ってるでえ」という情報を
お待ちしています。ファクス(06・6346・8444)
かメール(at-osaka@mainichi.co.jp)でお告知